

研修成果概要

伊勢市健康福祉部
子ども発達支援室
主査・藤村いつえ

- 1 事業の名称 平成28年度みえ発達障がい支援システムアドバイザー研修
- 2 留学先の名称 三重県立小児心療センターあすなろ学園
- 3 研修主題 発達障がい児支援のための「目利き」「腕利き」力の向上を目指して
- 4 研修成果の概要

(1) 発達障害の基礎・基本

現在日本で診断される発達障害等には、世界保健機関（WHO）が出しているICDと米国精神医学会が出しているDSMが用いられている。文部科学省でもこれらの定義をもとに特別支援教育の中で主な発達障害について定義している。

基礎・基本となる発達障害は、広汎性発達障害、自閉スペクトラム症、注意欠陥・多動性障害、知的障害・精神遅滞、学習障害などがある。まずは、これらについてまとめた。

(2) 療育について

あすなろ学園が行っているグループ療育の研修を受け、リーダーやサブリーダーとしての実践をさせてもらった。

グループ療育では、児童は5人程度の少人数でルールのあるゲームや協力する遊び、SST、制作などを通してコミュニケーション力や社会性を身につけていった。すべてのプログラムは、子どもたちの力を伸ばすために、どんな内容が適切かを考えて組み立てられていた。

そこで、構造化、感覚統合療法、ビジョントレーニング、応用行動分析などのプログラムの目的・内容についてまとめた。

(3) 「CLMと個別の指導計画」について

「CLMと個別の指導計画」は園児を対象に行われる、担任の指導のためのツールである。クラスにいる気になる子に対し、適切な支援や指導が行われないとクラス全体がまともならず担任が悩んでしまうことがある。そうならないために、気になる子やクラス全体にとって適切な指導（支援）計画を立て、実践し、振り返って、改善をはかっていく、いわゆるPDCAサイクルをもって指導（支援）を継続的に行うための実践方法である。

私自身この方法を知ることによって、子どもたちの気になる姿の捉え方が変わった。それまでは、子ども自身や家庭に問題があるから改善は難しいと考えがちだった。しかし、子どもや家庭のせいにはせず、その子の実態に合った根拠のある支援をすれば改善ができると考えられるようになった。

この取り組みは、保育園や幼稚園だけでなく、小学校でも活用できるのではないかと感じた。そこで、小学生に向けた「個別の指導計画」を作成した。

以上の3点について、研究の成果をまとめた。